

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語演習 I A	
科目基礎情報							
科目番号	0192		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学科		対象学年		4		
開設期	1st-Q		週時間数		2		
教科書/教材	(SM、SE、SJ、CC、ZZ) Kick off for the TOEIC®L&R (Edulinx)、(SM) 1 駅一題TOEIC L&R TEST文法特急(朝日新聞出版)、(SE、SJ) TOEIC L&R TEST入門特急とれる600点(朝日新聞出版)、(SE、SJ、CC、ZZ) TOEIC L&R 出る単特急 金のフレーズ(朝日新聞出版)						
担当教員	奥崎 真理子,山下 純一,高橋 真規子						
到達目標							
TOEIC模試のトータルスコアを前期Quarter1中に330点以上にする。(可330, 良350, 優400以上)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICトータルスコアを400点以上にできる。		TOEICトータルスコアを350点以上にできる。		TOEICトータルスコアを330点にできない。		
評価項目2	TOEICリスニングスコアを200点以上にできる		TOEICリスニングスコアを200点以上にできる。		TOEICリスニングスコアを200点にできない。		
評価項目3	TOEICリーディングスコアを200点以上にできる。		TOEICリーディングスコアを150点以上にできる。		TOEICリーディングスコアを130点にできない。		
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要	英語でコミュニケーションを行うために必要な基礎的な能力を、e-learning演習を通して訓練し、英語を理解し表現できる能力を養う。また、e-learning学習を通じて技術者として社会で役に立つメタ認知、自己統制、自己効力感を高めることができるようにする。						
授業の進め方・方法	・クォーター科目のため、授業はQuarter 1で、2週分90分を7回で実施する。 ・Unitの学習は計画的、継続的に進めること。 ・試験はすべてTOEIC 模擬試験(ネット配信)。試験期間中にクラス毎に受験する。(TOEICトータルスコアが330点の場合、換算表を使うと試験成績40点となる。課題・締切・学習態度点は20点満点。40点+20点=60点(合格ライン)) ・TOEIC模試330点未満は再試験対象。再試験で330点を取れない場合は不可とする。 ・基礎力を養成する目的で、TOEIC テストのListening力養成を主眼に置き、Part 1,2,3,5を中心に学習する。同時にReadingのPart 5の基礎を演習する。						
注意点	評価について： ・課題の進捗状況と個人のTOEICスコアによって評価する。 ・毎回の授業で「文法特急」小テストを行ない、20点満点を取るまで学習を繰り返す。20点満点を取ることで課題の小テスト・学習態度を20点とする。 ・成績は、試験80点と課題・小テスト・学習態度20点。試験はすべてTOEIC 模擬試験を試験期間中にクラスごとに受験する。TOEIC模試スコアの合計が330点の場合試験成績40点。350点で50点、400点で60点。詳しくは、換算表を参照。 ・課題をこなしても締め切りを守れない場合や、授業中の居眠りなど消極的な学習態度は、減点対象とする。目安は1回の確認につき1点減点。 ・TOEIC 模擬330点未満は再試験対象となり、再試験で330点に満たない場合は不可とする。ただし、同年度の1月末までTOEIC IP及び公式テストで330点以上取得した場合は合格とする。 ・函館高専の規程に基づき、欠席時数が2割超過(授業2回欠席)の場合は不可となる。 ・本科目は学修単位(1単位)の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修(予習・復習、課題・テスト等のための学修)を併せて45時間である。 ・自学自習の成果は 自学自習の成果は課題及び定期試験によって評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスを受けて、授業の受け方、課題の出し方、評価方法等について理解できる。 TOEIC Listening/Reading 問題		授業の目的・進め方・評価の仕方が理解できる。 eラーニングでの学習の仕方がわかる。		
		2週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		3週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		4週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		5週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		6週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		7週	文法特急問題を音読できる。単語テストができる。期日までにKick-offを自学自習できる。 TOEIC Listening/Reading 問題ができる。		e-learningをこなして、Listening とReadingの弱点補強ができる。 締切期日までに学習を完了できる。		
		8週	試験		330点以上を取得できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

評価割合

	試験	発表	課題・小テスト・学習態度	合計
総合評価割合	80	0	20	100
基礎的能力	80	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0